
殺人者

ルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺人者

【Nコード】

N3357P

【作者名】

ルト

【あらすじ】

友人を殺した男の話。

ああ、どうしよう、助けてくれ。どうしてこんな、ああくそつ。
わけが分からない。どうなってるんだ。おかしいだろ、こんなこと。
どうして俺がこんなことに。ああ、すまない、落ち着く。落ち着く
よ。

助けてくれ、もうお前しか頼りにできるやつはいないんだ。どうか、助けてくれ。違う、ああそうだ、説明しないと分からないよな、当たり前だ。すまない。くそ、まだ混乱してるな。思い出しただけで震えてくる。どうなってるんだ。こんな馬鹿なことがあってたまるか。ああ、くそ。説明する、説明するよ。包み隠さず全部言う。

俺は、人を殺した。

ああ、この手で、確かに殺したんだ。心臓を包丁で一突きにした。ニユースになってないか？ なってる？ なってない？ ああ、まだ見つかってないのか？ 分からない。……俺はあれから家に帰っていない。くそ、なあ、どうすればいい。ああ、違う。説明、説明だ。事情を話す。

恨みがあつたわけじゃない。金を貸していた。馬鹿のような大金だったわけじゃない。三十万。それだ。少なくとも、百万も千万も貸してたわけじゃない。俺だって、そんなことで殺すなんてありえない、いまでも思う。どうかしてたんだ、ちくしょうめ。あいつ、あいつが、高田の野郎が金を返さないんだ。

高田は、知っているか？ 知らないかもしれないな。あいつは、高校のときからの悪友で、一緒につるんだ。そのあとは、別の大学だったから、年に一二回会ってただけだ。あの馬鹿、女を孕ませて、大学を中退してからは、もっと交流がなくなった。それで、あれだ。不景気の中、仕事を見つけて、よくやっていたよ。ああ、そうだ、俺は高田を尊敬だっしてしてるんだ。そりゃあ、楽な暮らしじゃあなかったらうよ。たまに会ったら酒を頼みに愚痴ばかりだった。

それは、友人なんだから、別にいいんだ。むしろ、喜んで聞くさ。俺だって子供じゃないんだ。ろくでもない会社に就職して、ろくでもない上司にろくでもない仕事させられながら、ぐずぐずひいころ働いてたんだ、俺だって愚痴くらい言いたかったさ。でもそりゃあよ、高田は俺より苦勞してるんだ。話を聞くのが筋つてもんだ。それで、金だ。たまに会って、車を買いたいってんで、中古の小型車買うつてんで、それならと金を貸してやったんだ。嫁さんと子どものためって言われたら、断れるはずがないだろ。

それで、それから、何年だ。そう、十五年だ。待ったさ。俺だって楽な暮らしじゃなかった。酒なんて、忘年会でしか呑めない暮らしだ。連れ合いもなく、黙ってしつかり働いてたさ。何が悪いってんだ、俺が何をしたってんだ。会社が潰れやがったんだ。なんとか就職口を見つけたからよかったが、こつこつ貯めてた貯金も、食いつないでる間になくなっちゃった。次また潰れるかと思うような会社だ、給料もねえ。その日暮らすのが精一杯だ。くそ、俺ばかりなんでこんな目に。

違う、ああ、それで、高田だ。あいつは、地道に働いてて、少しずつ昇格して、俺より給料高かった。二倍なんてもんじゃなかった。家建ててやがった。家族もあるんだ、すぐには返せねえ。思ってたが、どうだ。車なんぞ買い替えてやがったんだ。ハイブリットだ、くそつたれ。苦勞してたんだ、認められてよかっただろうよ。別にいいんだよ、それは。いいと思わなきゃならねえんだ、友達なんだから。だけど、くそ、俺はいつまでもあんな暮らしを我慢してたのに、違う、それは関係ない。ああ、そうさ。金を返してくれれば、当面は楽になったんだ。散々言ったが、俺だって、そろそろ昇格も近かったんだ。上司に聞いたんだ。間違いない。殺す理由なんてないんだ。なんで殺すことになったんだ。ああ、くそ。どうなつてやる。

高田、そう、高田だ。たまに会って、家に招かれて、これだけの暮らしをしてるなら、三十万ぼっち、返してくれと言ったんだ。別

に、即座に返してもらうつもりじゃなかった。受験とか、なんだ、そういうの。用意できないこともあるだろうよ。分かってる、あ、大丈夫、俺だって分かってるさ。返してもらえればそれでよし、無理でも見通しを教えてくださいれば、よかったんだ。それなのに、高田は、どうだ。昔のことだ、もう返さなくてもいいだろう、だ。ご祝儀と思って、寄越してくれ、だ。ちくしょうめ。糞野郎が、ざまを見る！

違う、ああ、落ち着くから。待ってくれ。

俺はおかしくなったんだ。高田を殺した。そこで刺した。間違はなく殺した。あいつは、床が見えなくなるくらい、とんでもない血を吐いて、目をかっと開いて、足をぶるぶる震わせて、倒れて、死んだ。熱くて、血が、刺して手に掛かった血が、火傷するかと思っただくらい熱くて、驚いて包丁を棄てた。血は、すぐに、冷めた。ぬるりとしていた。包丁、包丁は、今でも高田に刺さってるんじゃないか。俺は、知らない。逃げた。上着を脱いで、めちやくちに返り血を拭って、ビニール袋に入れて、それでやっと逃げ出した。分からない、なんでそんなことをしたんだ。ああ、くそ。

俺は、なあ、どうすれば

うわっ！？

——…行っただか？ 行っただ？ 馬鹿、パトカーだ。通っただろ
う。違うな？ 俺を捕まえに来たんじゃないな？

ああ、くそ、ちくしょう。どうしてこんなことになったんだ。わ
けが分からない。俺は、おかしくなっちまったのか？

今でも、目をつぶれば、鮮明に思い出す。高田の死に顔だ。目を
かっとなげて、口を、あえぐように開け閉めして、ぶるぶる震えて、
熱い、すごい熱いんだ。頭に焼き付いて離れない。もう、思い出せ
ない。高田と、普通に話してた、高田の記憶がなくなっちまった。
全部死に顔だ。あの、苦しんで、苦しんで、苦しみぬいた、あの顔
だ。おかしくなっちまったのかもしれない。

ああ、くそ、どうすればいいんだ。忘れられない。嫌だ、俺は、
どうすればいい。助けてくれ。

震えるくらい、興奮してる。おかしい、おかしいんだ。俺は、高
田を、あいつを殺しちゃった。どうなってるんだ、おかしいだろ、
こんなの。わけが分からない。

俺の腕で、刺して、肉を破って、心臓を突いて、ぶるりと震える。
目をかっとなげて、苦しんで、喘いで、ぶるぶる震えて、熱いのが、
ぬるぬると手に掛かるんだ。俺が、俺の手で、あんなに、苦勞して、
妻子を養ってた、友達が、死んじゃうんだ。あんな簡単に。俺の手
の下で、命が、思い出が、人格が、なくなっちまうんだ。繊細な硝
子の芸術をぶち壊すみたいに、あっけなく壊れちまうんだ。

ああ、なんだか、わけが分からない。

俺は、高田を殺したのが、恐ろしくて仕方がない。死んだら、何
にも、なくなる。ああ、手が震える。忘れられない。あの感触。
たまらない。

親しいやつを殺したら、大切なやつも、一緒の思い出も、全部なくなっちまうんだ。まったく知らないやつを殺したら、どんな暮らしをしてたのかも関係なく、全部、俺がなくしちまうんだ。俺が、俺が、俺がだ。ああ、震えそうだな。考えただけで、ぞくぞくする。

道を歩くだけで、もうだめだ。見かける男、女、親子、見て、死に顔を想像するんだ。刺したら、どうなるだろう。目の前で刺されたら、どんな顔をするだろう。いや、絞めるのも、どうだ。血がたまつて顔が真っ赤になって、舌が出てきて、目がぎょろりと大きくなるんだ。抵抗して、俺を蹴ったり殴ったりするだろう。俺は痛い。離したくなる、逃げたくなる。でも、辛抱する。目の焦点が、合わなくなつて、歯車が飛ぶみたいに、力が入らなくなる。ぶるぶる、痙攣して、死ぬ。死にまうんだ。きつと、そうだ。

……俺は、何を考えていた？

これは。おい、なんだよ。違う、間違いだ。俺は笑ってなんかいない。本当だ、信じてくれ。違うんだ。ああくそ、嘘だろ、どうなってるんだ。こんな馬鹿なことがあつてたまるか。

こんなはずがないんだ。なんてことだ。助けてくれ。俺は、俺はどうしたんだ。おかしくなっちまったのか。ああ、どうしよう。どうすればいいんだ、なあ。助けてくれ。助けてくれよ。

俺は、おかしくなっちまった。

（後書き）

いわゆる狂気小説というのでしょうか。閃いたので、挑戦してみました。

この形式。

ハイレベルな小説技法。

触れたら必ず火傷すると言われる伝説の技法でございます。

火遊びしてみたかったのさ。火傷すると分かっているもな……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3357p/>

殺人者

2010年12月5日23時10分発行